

福岡市におけるクラミジア・トラコマチス抗体検査について

保健科学課 梶山 桂子・川本 大輔・延永 寛子
宮代 守・樋脇 弘

第 58 回福岡県公衆衛生学会

福岡市では、性感染症対策として、各区保健福祉センターにおいて無料、匿名での *Chlamydia trachomatis* (以下 Ct) 抗体検査を平成 13 年 6 月から実施しており、今回、過去 10 年間に実施した Ct 抗体検査の結果を報告する。

検査総数は 19,776 件であり、Ct 抗体陽性率は 19.8%であった。年度別の Ct 抗体陽性率は平成 14 年度の 28.0%をピークとし、以降は 20%弱の高い数値で推移し、本市において Ct 感染症の蔓延が継続していることが推察された。男女別の Ct 抗体陽性率は、男性全体が 14.7%、女性全体が 25.6%と、女性の方が高かった。

本市での Ct 抗体検査は HIV 抗体検査と併設して行われており、過去 10 年間の検査件数は、HIV 抗体検査数が 32,336 件であったのに対し、Ct 抗体検査数は前述の 19,776 件であった。この中で、Ct 抗体と HIV 抗体の同時検査を受検した人は 59.5%、HIV 抗体検査のみ受検した人は 39.5%、Ct 抗体検査のみ受検した人はわずか 1.0%であった。今後、Ct 抗体検査は HIV 抗体検査のオプションという位置づけでなく、Ct 感染症と HIV 感染症を関連付けた STD 対策の啓発を強化し、Ct 感染症への関心を高めていくことが必要と考えられる。